

アジア最大の医療機器の製造・設計に関する展示会・セミナー
5回目の今回、東京に会場を移して過去最大規模で開催

「MEDTEC Japan 2013」開催結果のご報告

- **過去最高** 出展社数：383社／団体…地方自治体と異業種参入企業の出展が目立つ
- **過去最高** 来場者数：13,210名…新規サプライヤーを求める医療機器メーカーの動きが活発化
- 日本発の革新的な医療機器を表彰する、第2回「MEDTEC イノベーション大賞」を決定
- 次回は2014年4月、会期を3日間に拡大し、医療用エレクトロニクス・ICT技術の展示会を併催(予定)

去る4月24日(水)・25日(木)の2日間、「東京ビッグサイト」(東京都江東区)で開催されたアジア最大の医療機器の製造・設計に関する展示会・セミナー「MEDTEC Japan 2013」^{※1}の開催結果についてご報告します。

※1:「MEDTEC Japan 2013」…主催:UBM Canon Japan 合同会社/後援:日本医療機器産業連合会/協賛:日本の技術をいのちのために委員会、日本医工ものづくりコモンズ、公益社団法人計測自動制御学会、日本バイオマテリアル学会。

<出展社数・来場者数^{※2}>

- ・ 出展社数：**過去最高** 383社／団体
- ・ 来場者数：**過去最高** 13,210名(1日目：6,445名、2日目：6,765名)

※2:【ご参考】前回の結果…出展社数：302社／団体、来場者数：10,577名(1日目：5,204名、2日目：5,373名)。

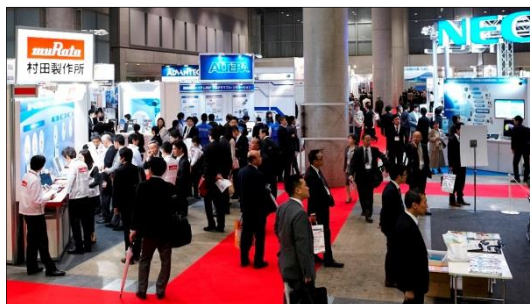
1. 出展社数は383社、来場者数は13,210名となり、ともに過去最高に

今回は、出展社数・来場者数とも過去最高となりました。第1回から毎年、開催規模を拡大しています。

出展社数は前回実績を81社上回る、過去最多の383社／団体(前回比約27%増)。展示エリアが計10エリア^{※3}に広がったこともあり、多数の医療機器業界向けサプライヤーが出展。医工連携に積極的な地方自治体の出展と、成長分野である医療機器業界に異業種から参入を図る企業の出展が目立ちました。

今回の新規出展社／団体は、167社／団体となりました。「MEDTEC Japan」では、中小企業にとって医療機器業界参入とビジネス拡大の後押しとなるよう、地方自治体単位での地元中小企業の共同出展を積極的に受け入れています。自動車／エレクトロニクス業界などで培われた“匠の技”を生かしながら、医療機器への応用・転用を提案する製品・技術が多数展示され、自社技術をアピールする場として活用いただけたと見えています。

来場者数は、前回実績を2,633名上回り、過去最多の13,210名(前回比約25%増)となりました。政府の規制緩和に向けた動きも後押ししてか、新しいサプライヤーを求める医療機器



メーカーの動きが活発化したものと考えられます。例年以上にブースでデモンストレーションを行う出展社が増えたこともあり、来場者が熱心に展示に目を向ける姿や、出展社に積極的に声をかける姿が見られました。

※3：「スマートヘルスケア」エリア、「BIOMEDevice（バイオメドデバイス）」エリア、「アカデミー・TLOエリア」、「メディカル・パッケージング エリア」、「メディカル測定・検査 エリア」、「メディカルロボット・オートメーション エリア」の新設6エリアを含め、「メディカル金属・工具 エリア」「メディカルプラスチック エリア」「メディカルRP・CAD/CAM エリア」「メディカルエレクトロニクス エリア」の4エリアを加えた、全10エリア。

2. 日本発の革新的な医療機器を表彰する、第2回「MEDTEC イノベーション大賞」が決定

優れた国内企業による日本発の革新的な医療機器を表彰する、第2回「MEDTEC イノベーション大賞」の最終審査^{※4}が展示会初日（24日）



に行われ、栄えある大賞には瑞穂医科工業株式会社の「近赤外蛍光カラーカメラシステム」が選ばれました。

審査委員長の妙中義之氏^{※5}は、「もともと医療機器メーカーだが、その特徴をいかしつつ、異業種の最先端技術を医療機器分野に展開することを主導した点が素晴らしい」と講評。また、審査委員の竹上嗣郎氏^{※6}は、「世界的にも優れた技術だが、異業種と連携した点が高く評価された」と述べました。

※4：ノミネート企業によるプレゼンテーション（約10分）を経て、有識者で組織する審査委員会による最終審査を実施。

※5：妙中義之氏…日本の技術をいのちのために委員会代表、国立循環器病研究センター研究開発基盤センター長。

※6：竹上嗣郎氏…東北大学NICHe副センター長・教授。

なお、今回の各受賞企業・製品は、以下の通りです。

<第2回「MEDTECイノベーション大賞」受賞企業・製品>

賞	受賞企業	受賞製品
MEDTEC イノベーション大賞	瑞穂医科工業株式会社	近赤外蛍光カラーカメラシステム
チャレンジ賞	山科精器株式会社	洗浄吸引カテーテル
期待賞	ローム株式会社	微量血液検査システム
努力賞	ゼオンメディカル株式会社	エクストラクション・バルーン・カテーテル
奨励賞	株式会社トップ	脱気防止弁
	株式会社ニチオン	クリップ鉗子システム
	株式会社村田製作所	金属メッシュを用いた微量物質検出技術
	富士フイルム株式会社	遠隔画像診断治療補助システム

*各受賞企業・製品の詳細は公式ホームページ（URL <http://www.medtecjapan.com>）をご参照下さい。

3. 異業種参入の成功事例等が学べる新設セミナーは、受講者で満席となる盛況

今回、新設された「サプライヤー向け」「スマートヘルスケア」「BIOMEDevice（バイオメドデバイス）」の3テーマのセミナーは、より実用的・実践的な講義を集中して受けられるとあって、受講者で満席となる盛況。例年に続き好評だった、医療機器業界の最新情報や市場動向等を学べる「国際セミナー」と



合わせて、業界全体の知識と、必要性の高い専門知識を個々に学べる総合的なセミナー構成となり、受講者からも「非常に有意義な情報が得られた。今後のビジネス展開に活用できそうだ」「他では聴講できないような講演者・内容でプログラムが充実しており、非常に参考になった」といった声^{※7}が寄せられています。

なお参加者は、全4セミナー（全て事前登録制・有料）で、計約540名でした。

※7：セミナー終了後、主催者が会場で受講者と直接、コミュニケーションをとる中で得られた感想。

4. 経済産業省の講演に注目が集まった「最新技術フォーラム」



医療機器分野／医療用エレクトロニクス分野のオープンフォーラム「最新技術フォーラム」（参加無料・自由聴講）では展示会初日（24日）、経済産業省 商務情報政策局 医療・福祉機器産業室による講演に注目が集まりました。講演では、同省の医療・福祉機器産業政策について、

「今後、約20兆円といわれる海外医療サービス／機器市場で日本企業の競争力を強化するために、企業の新規参入と『医工』連携の環境整備、課題解決型事業のさらなる推進、がんプロジェクトなどの革新的な医療機器開発の推進をしていく」（覚道崇文室長）といった具体的な施策等が示され、立ち見を含め多数の来場者が聴講しました。なお、同省が「MEDTEC Japan」に出展するのは初めてのことであり、展示された「課題解決型医療機器等開発事業」の成果にも来場者の関心が集まりました。

このほかのフォーラムとして、出展社による医療機器の最新技術やビジネスモデルに関するプレゼンテーションが計17社によって行われ、例年以上の盛況となりました。

5. 次回は2014年4月9～11日（東京ビッグサイト）、展示会規模・会期を拡大して開催予定

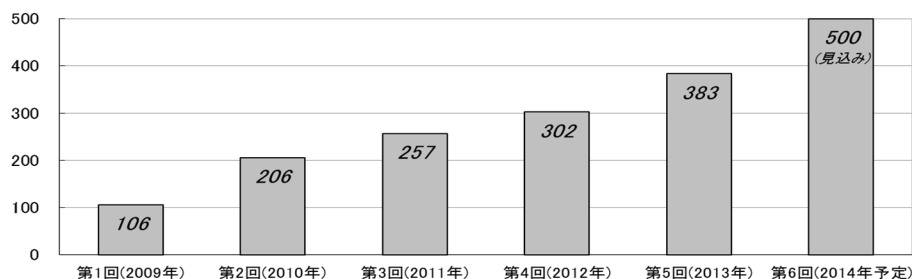
次回は、2014年4月9日（水）～11日（金）に「東京ビッグサイト」にて開催予定。

会期も3日間に、展示会規模もさらに拡大し、出展社数は500社／団体、来場者数は16,000名を目指します。

[グラフ]

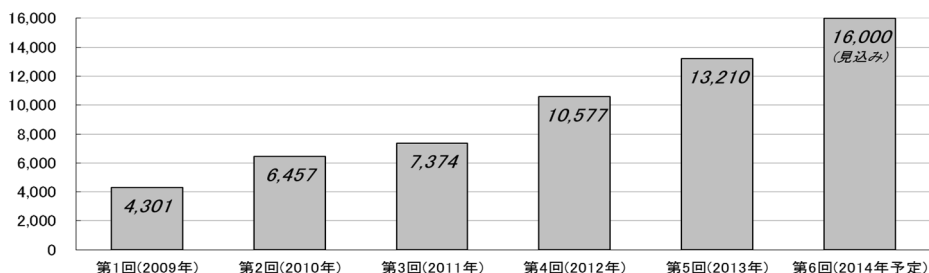
◇「MEDTEC Japan」

出展社数推移



◇「MEDTEC Japan」

来場者数推移



出展社にとっては、より長く自社技術等の展示をアピールできるようにし、また来場者にとっては、じっくりと最適なサプライヤーを探せるようになります。

また、医療機器業界で最も注目される分野であり、今後の成長・拡大が見込まれる医療用エレクトロニクスおよび医療用ICT技術の展示エリアを独立させ、「医療用エレクトロニクス・ICTの専門展示会『Electro MED (エレクトロ メド)』」として併催。出展社・来場者のニーズに応える、より充実した展示会を目指します。

なお、次回の出展申込受付は5月1日（水）より開始しています。

【出展の問い合わせ／資料請求先】 ※記事中の読者問い合わせ窓口もこちらでお願いします。

「MEDTEC Japan 事務局」(UBM Canon Japan 合同会社内)

TEL : 03-4360-5664 / E-mail : medtecjapan@ubm.com

*会場スナップ（画像データ）をご用意できます。下記【報道関係窓口】までお申し付け下さい。

＜この件に関するお問い合わせ先＞

【報道関係窓口】 株式会社ユニ・プランニング 担当：白田
TEL : 03-5282-8651 / FAX : 03-5282-8658
E-mail : usuda@uni-planning.co.jp

【リリース発信元】 UBM Canon Japan 合同会社 担当：滝川
TEL : 03-4360-5669 / FAX : 03-4360-5301
E-mail : aiko.takigawa@ubm.com